

2021年の内外石油情勢の展望と課題

一般財団法人日本エネルギー経済研究所

石油情報センター 事務局長

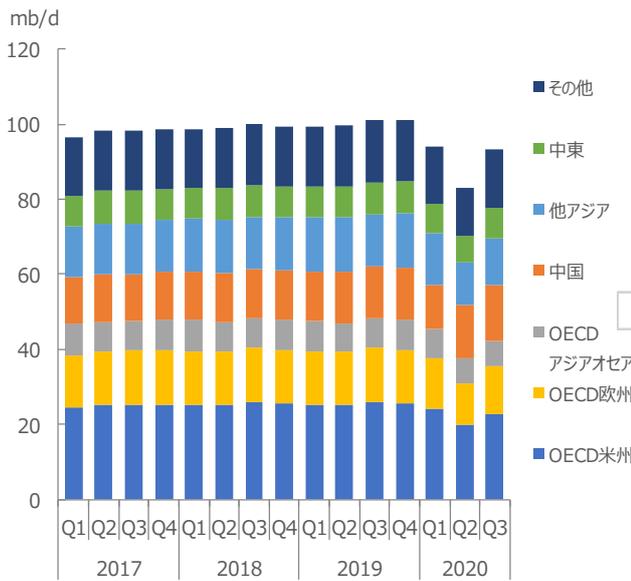
橋爪吉博

本報告のポイント

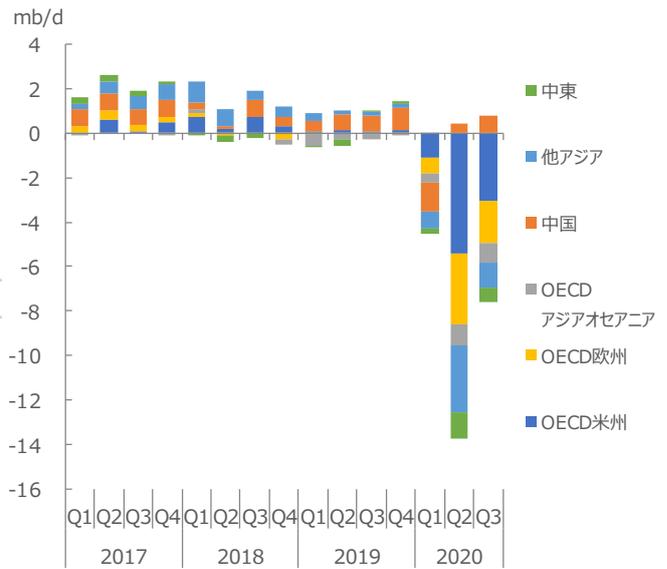
- ✓ 2021年の世界の石油需要は、新型コロナの収束・経済の回復を反映し、2020年比660万b/d増の9,790万b/dとなるが、2019年の水準には戻らない（2019年比190万b/d減）。また、供給は2020年比430万b/d増の9,950万b/dに回復する。2021年通年で供給過剰気味に推移するが、需要回復が進めば、市場は徐々に需給均衡に向かうと見込まれる。
- ✓ 国際原油（Brent）価格は、2021年平均で\$50/bbl、プラス・マイナス\$5/bblの幅で推移する。不確定要素として、コロナ収束の遅れ、世界経済の停滞、早期のイランの生産回復（経済制裁緩和）、OPECプラスの減産の緩み、米国の増産等がある場合には低価格ケース（基準ケース比マイナス5ドル程度）、逆に、コロナの早期収束、世界経済の好調、中国による需要牽引、中東における緊張の高まり等がある場合には高価格ケース（同プラス5ドル程度）が想定される。
- ✓ 今後、国内でも脱炭素化の加速が予想され、石油業界は事業基盤転換と共に、過疎地SS対策や災害時を含めた安定供給の維持の並行的対応が求められる。

石油需要

需要



需要増減（前年同期比）



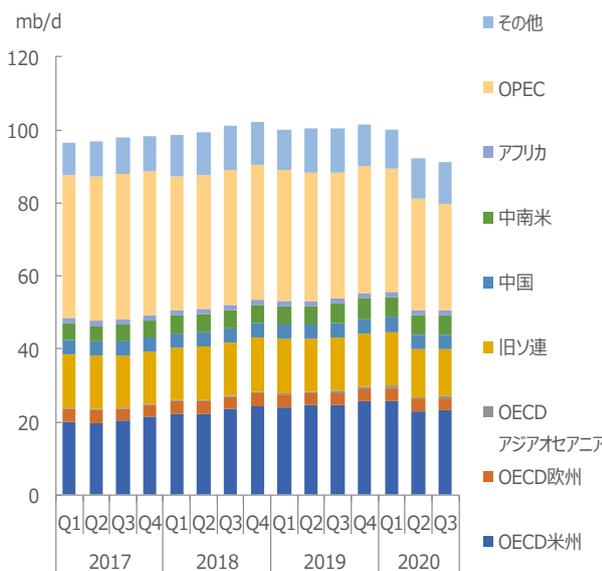
出所: IEA "Oil Market Report"

- 2020年第3四半期の需要は前年同期比780万b/d（7.8%）減の9,300万b/d。コロナ禍の第2四半期の8,310万b/d（前年同期比1,620万b/d減）からは大きく改善したが、感染再拡大の中、ジェット燃料を中心に、需要回復は遅れ気味の推移。

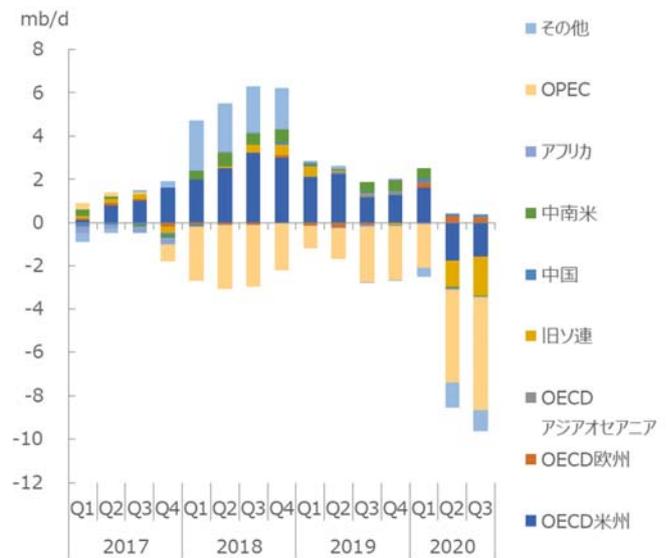
IEE © 2020

石油供給

生産量



生産量増減（前年同期比）



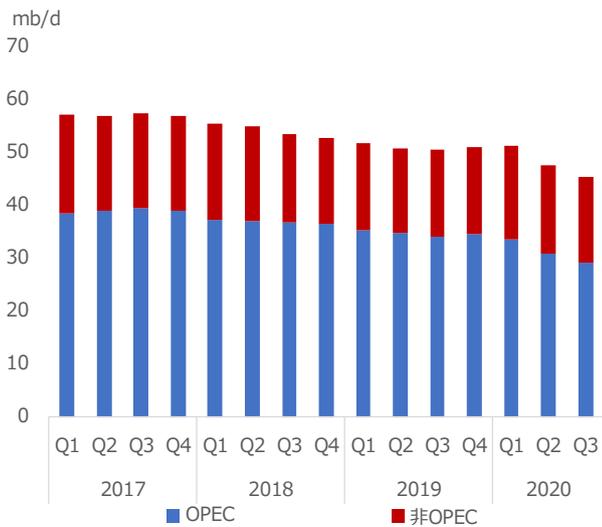
出所: IEA "Oil Market Report"

- 2020年第3四半期の生産量は前年同期比920万b/d（9.2%）減の9,110万b/d。
- OPECプラス減産、米・加等の生産回復遅れで第2四半期の9,210万 b / d より減産。

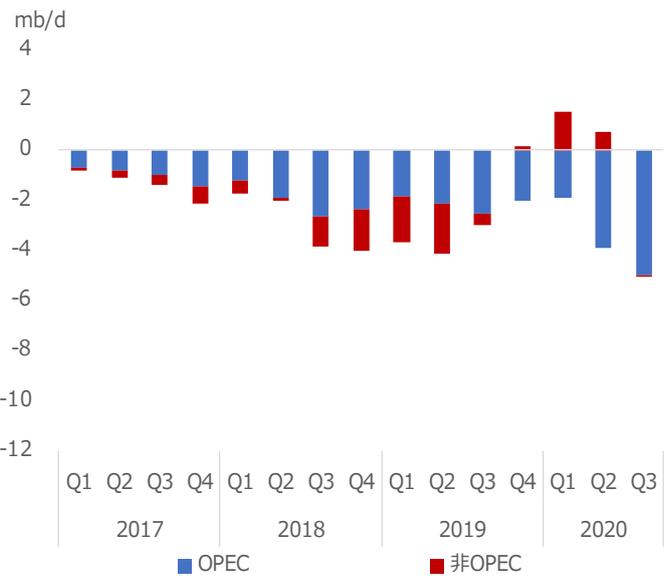
IEE © 2020

OPECプラス協調減産

生産量



生産量増減（前年同期比）

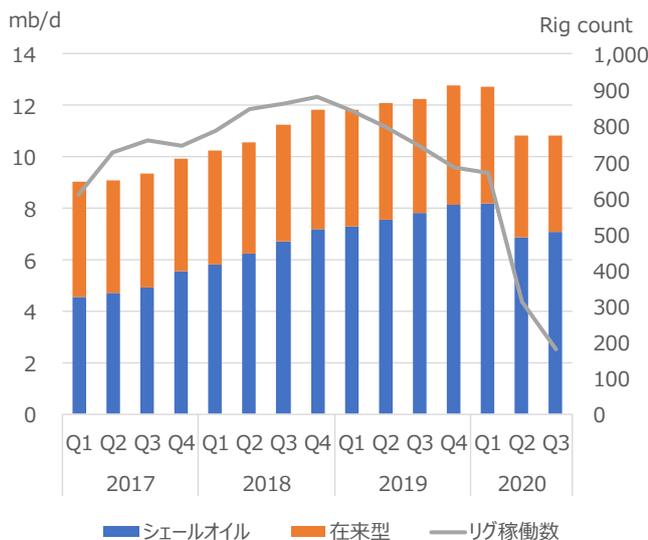


出所: IEA "Oil Market Report",

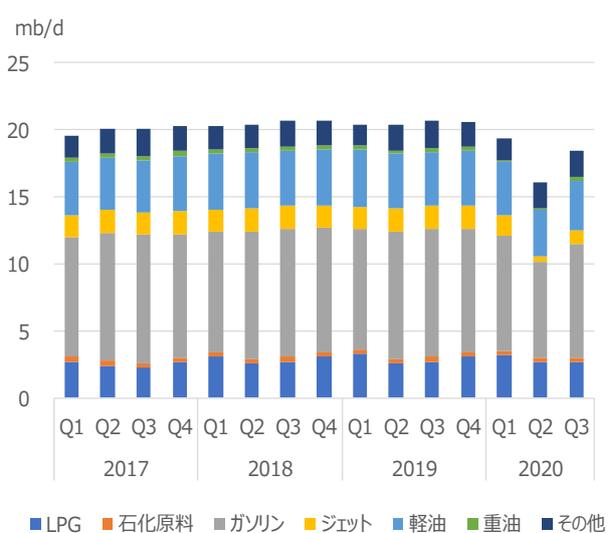
- OPECプラスの2020年11月の生産量は3,430万b/dと、減産順守率は101%。OPECプラスは12月1日現行減産規模の50万 b/d 緩和（720万 b/d）を合意。
- 引き続き、需給状況を勘案した減産水準の決定が期待される。

米国需給

生産量・リグ稼働数



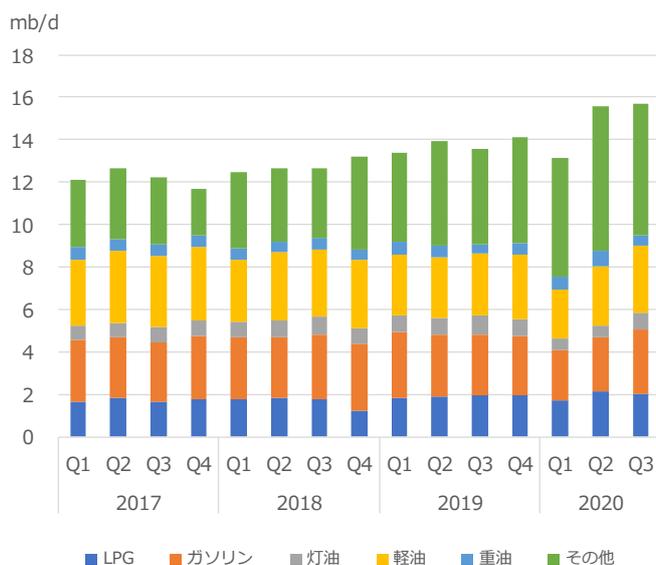
製品別需要



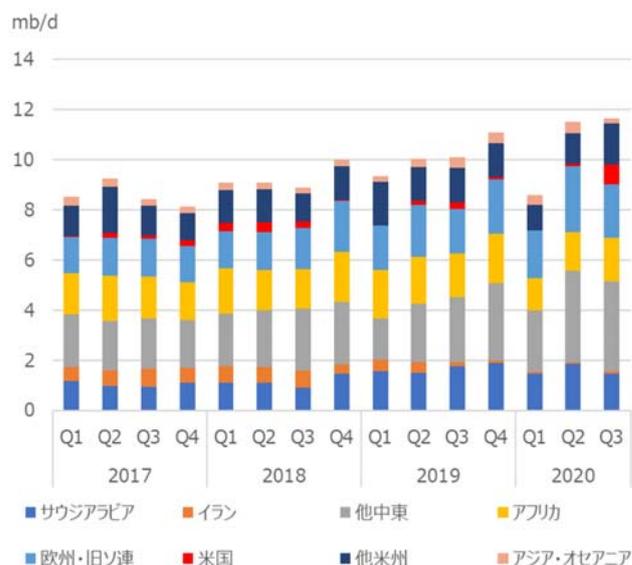
出所: EIA統計、Baker Hughes

- 2020年第2四半期の需要は前年同期比420万b/d（20.8%）減の1,610万b/d。同期の油種別の減少率は、ジェット燃料同75.9%減、ガソリン同25.0%減。単月では、4月1,470万b/dが底で、8月には1,840万b/dに回復。
- 2020年第2四半期の生産は前年同期比130万b/d（10.7%）減の1,080万b/d。単月の生産は、5月1,002万b/dが底で、8月には1,058万b/dに回復。

製品別需要



原油輸入量

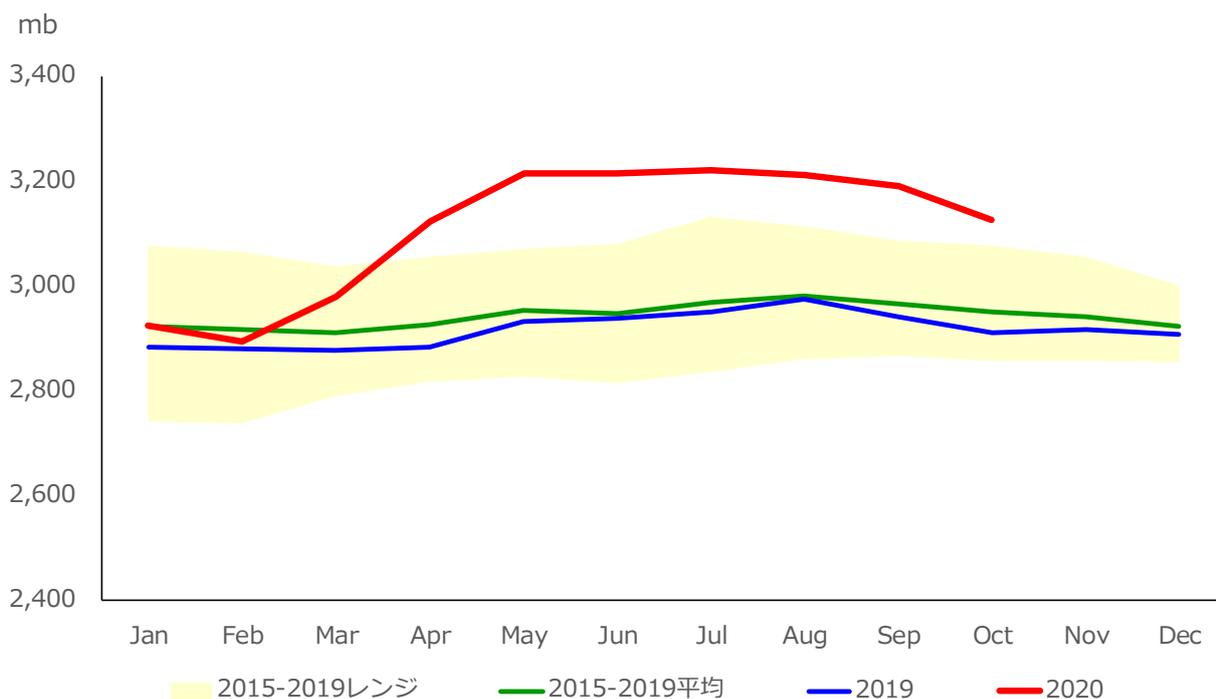


出所: APEC "EGEDA Database"、China OGP

- 2020年第2四半期の需要は前年同期比107万b/d (12.0%) 増の1,560万b/dと、第1四半期の1,310万b/dから急速な回復。
- 米中摩擦により、2019年12月～20年5月には、米国からの輸入実績なし。

IEE © 2020

在庫

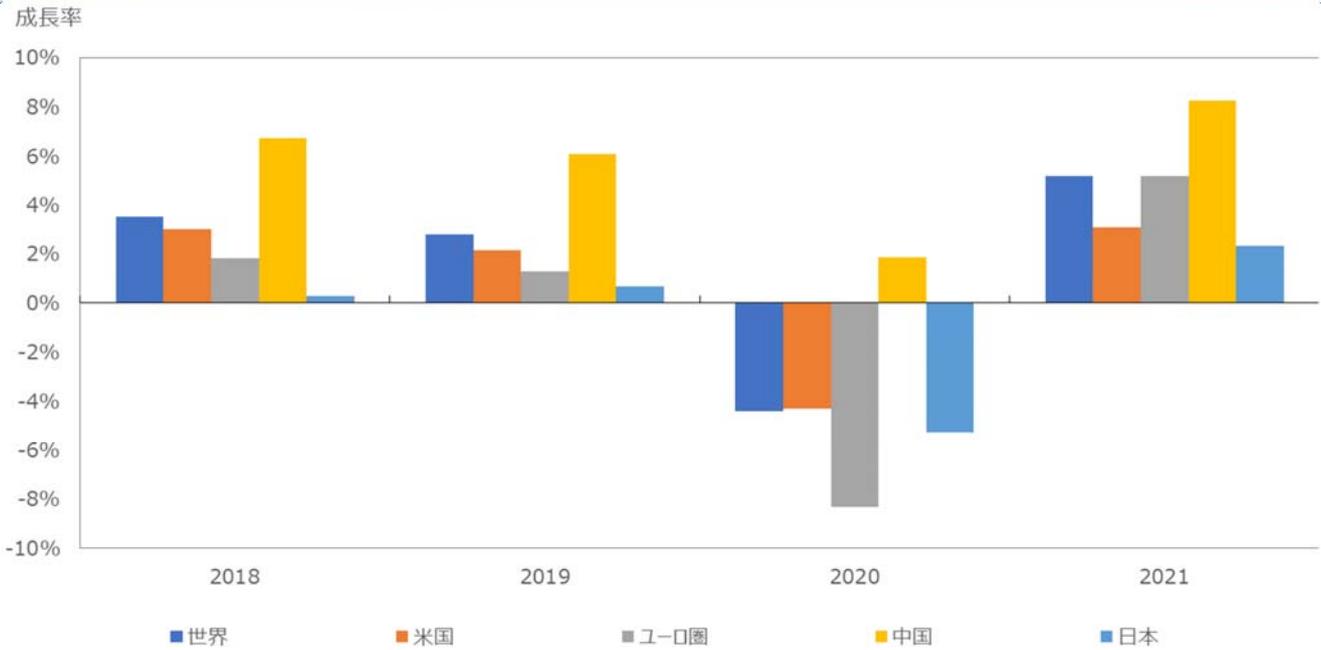


出所: IEA "Oil Market Report"

- OECD商業在庫は、改善しつつあるが、10月は31億2,900万バレルと高止まり。

IEE © 2020

マクロ経済

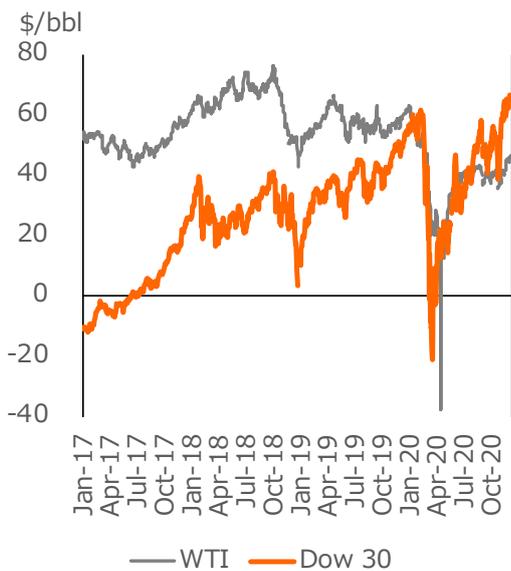


出所: IMF “World Economic Outlook”

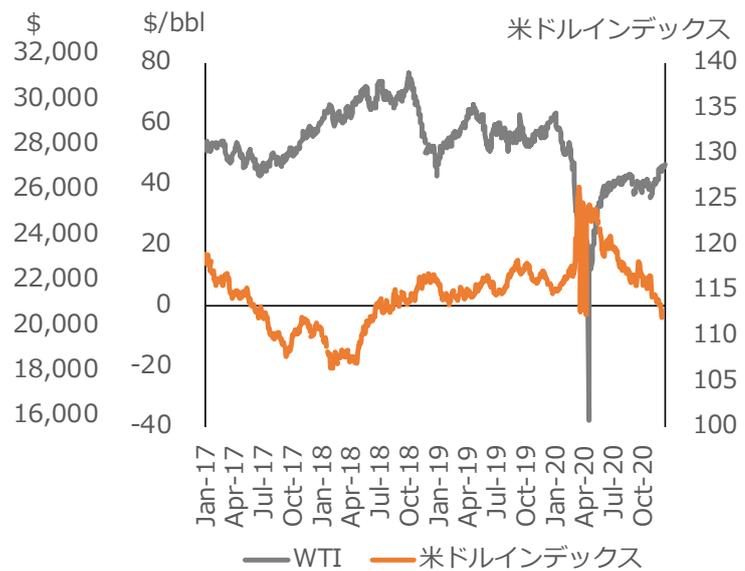
- IMFは、10月、世界経済成長率を2020年▲4.4%、2021年+5.2%と見通し。6月発表の見通しを、前者は上方修正、後者は下方修正。

金融市場

油価と株価



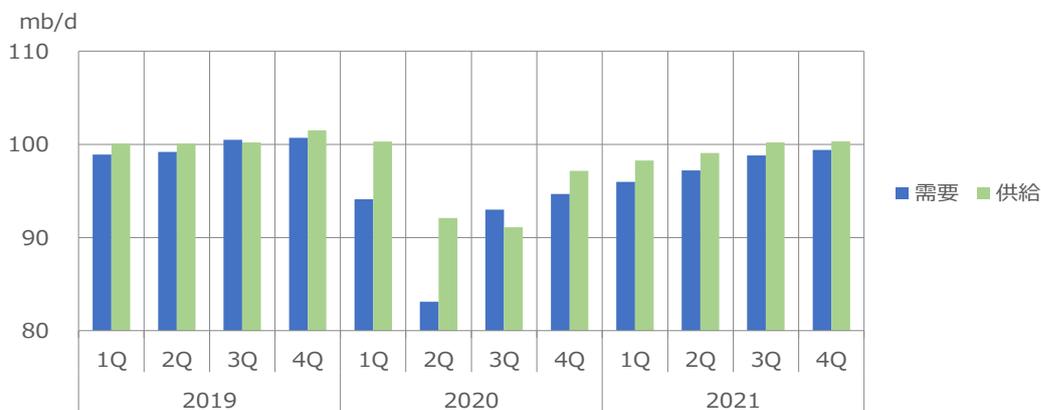
油価と為替



出所: FRB統計

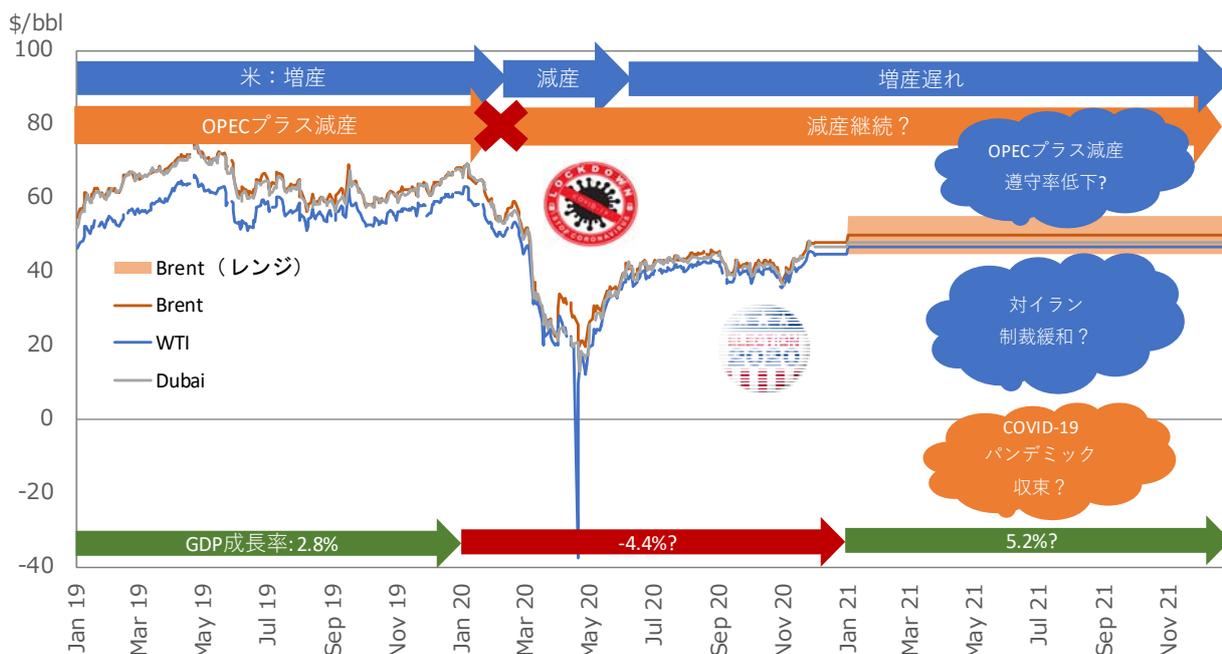
- コロナ禍による油価の下降局面とその後の上昇局面では、米国株価と油価に一定の相関関係が見られたが、20年8月以降の感染再拡大による油価停滞局面では乖離が生じた。しかし、ワクチンへの期待が株価上昇に寄与し始めた11月以降は再び油価上昇と連動が見られる。

需給バランス見通し



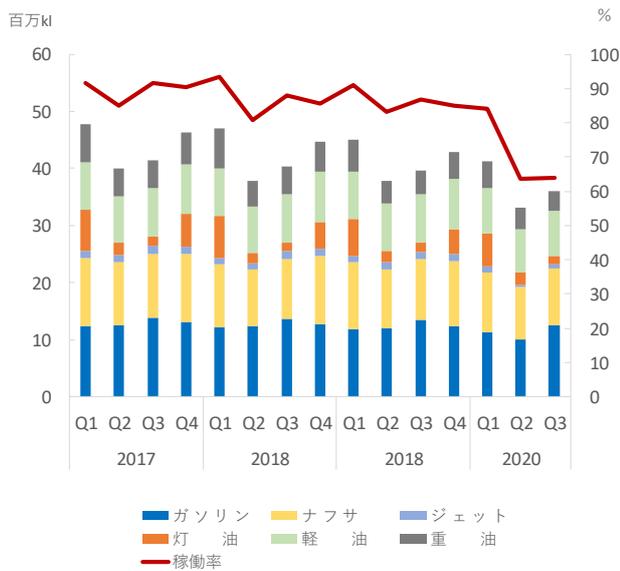
- 2021年の需要は2020年比660万b/d増の9,790万b/dとなるが、2019年の水準には戻らない（2019年比190万b/d減）。
- 2021年の供給は2020年比430万b/d増の9,950万b/dに回復。2021年通年で供給過剰気味に推移、需要回復が進めば、市場は徐々に需給均衡に向かう。

原油価格見通し

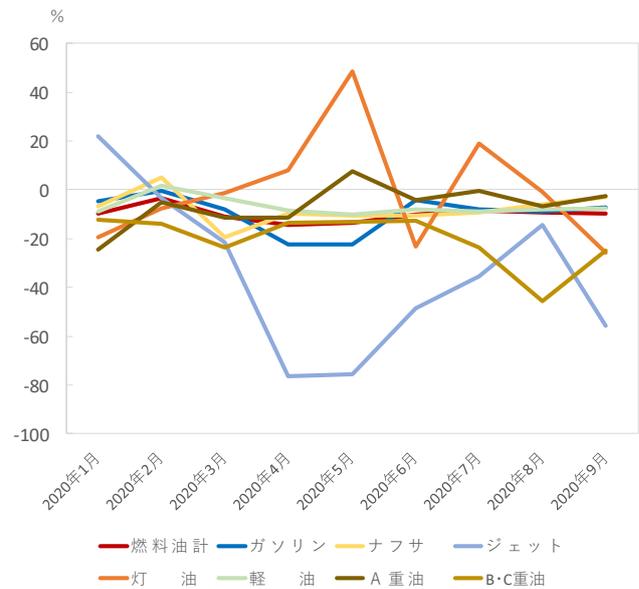


- 2021年の国際原油（Brent）平均価格は\$50/bbl、プラスマイナス5/bblの幅で推移
- コロナ収束遅延、世界経済停滞、OPEC+減産の緩み、イラン早期増産、米国増産等の場合、低価格ケース（基準ケース比マイナス5ドル程度）。
- コロナ早期収束、世界経済好調、中国による需要けん引、中東での緊張等の場合、高価格ケース（同プラス5ドル程度）。

燃料油販売量と精製設備稼働率



2020年製品販売量（前年同月比）

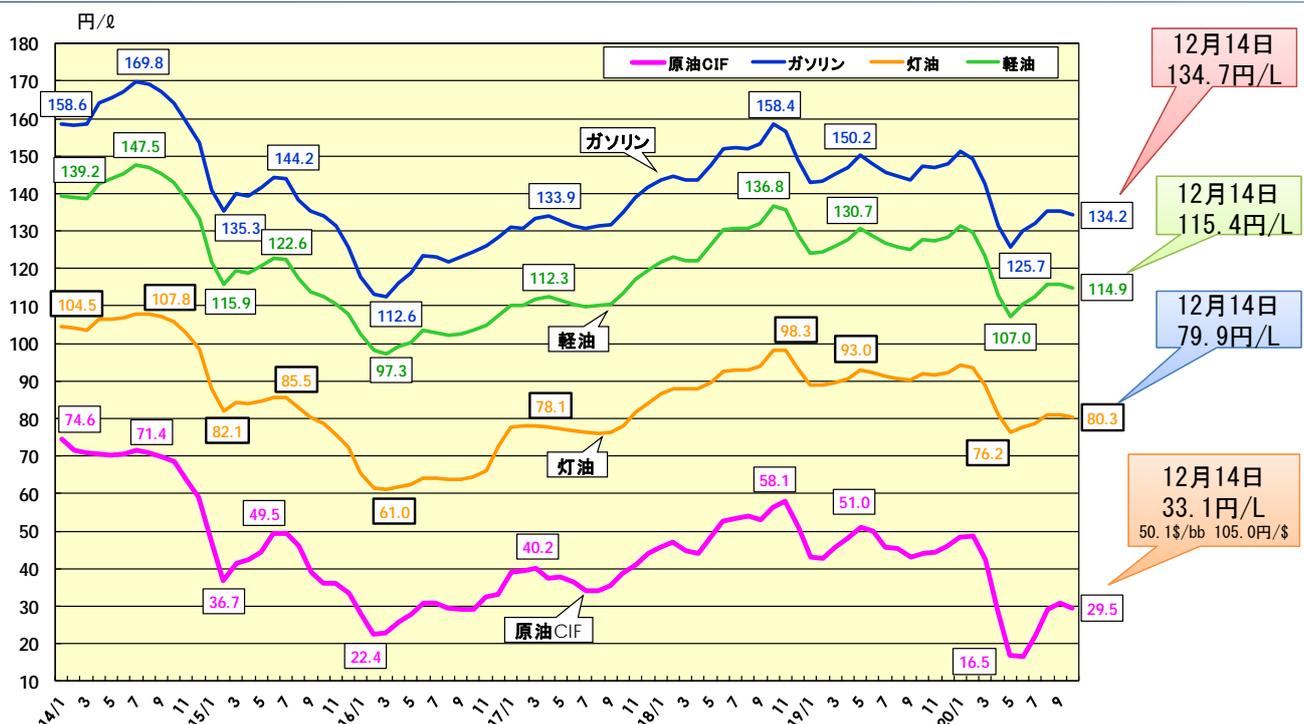


出所：経済産業省

- 2020年第3四半期の石油（燃料油）内需は月平均1,198万kl（246万b/d）で前年同期比9.1%（120万kl）減少と第2四半期需要1,102万kl（226万b/d）から9.2%増。
- 製油所稼働率は2018年第2四半期64%、単月では5月に59%と低稼働に直面。

IEE © 2020

国内影響③ 原油価格に国内市況追随・マージン確保



- 現時点まで国内石油製品市況は原油調達コストに2~3週程度遅れつつ追随。
- 今後は、脱炭素化の動きの加速も予想され、石油業界にとっては、事業基盤の転換と過疎地SSや災害時を含めた安定供給の維持の並行的対応が求められる。

IEE © 2020